

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 56

2024年4月発行

令和5年度 冬季企画展③  
昔の暮らし～火ひと目～

旧家で暖家(あったか)支援  
こどものお茶会から  
大人の石臼珈琲体験まで

特別寄稿  
『『ポケモンの涙』の奇跡』①

連載コラム  
『落穂拾い - 今東光の薫風 - (五十)』



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

## 展示・イベント案内

安中新田会所跡旧植田家住宅 (指定管理者:NPO法人ICALI) 令和6年度企画展①

### 開館15周年記念展示・前編

15th ANNIVERSARY

2024.4/27(土)~7/28(日) 休館日:火曜日  
5/8(水)・9(木)・10(金)

過去15年間の企画展の中から選りすぐりの優品を展示

八尾市指定文化財  
安中新田会所跡  
旧植田家住宅

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25  
t. 072-992-5311 <http://kyu-uedakejatakaku.jp/>

2024.9/7(土)~12/2(月) 休館日:火曜日  
9/25(水)・11/6(木)・25(月)

安中新田会所跡旧植田家住宅 (指定管理者:NPO法人ICALI) 令和6年度企画展②

### 展示・イベントのご案内

- ◎ 2024年4/27(土) - 7/28(日)  
企画展①「開館15周年記念展示・前編」  
過去15年間の企画展の中から美術・工芸品の優品を展示します
- ◎ 2024年6月~11月 旧家で芸能・伝統文化~錦影絵プロジェクト2~  
幻燈師になって錦影絵演目の上演を目指します。

※休館日はP15をご覧ください

## Contents

- 4 | 令和5年度 冬季企画展③  
昔のくらし～火ひと日～
- 6 | 企画展関連体験講座  
「いろんな火おこしに挑戦しよう！」
- 7 | 旧家で芸能・伝統文化  
落語の会で心も体もあたたかく
- 8 | 旧家で暖家(あったか)支援  
こどものお茶会から  
大人の石臼珈琲体験まで
- 10 | 日日植田家住宅 第13日:御財印、はじめました。
- 11 | 特別寄稿「『バケモンの涙』の奇跡」①
- 12 | 四会所だより(36) ～平野屋新田会所～
- 13 | 植ちよピ(おもちつき、ギャラリー展、ぶらり玉串川、ほか)
- 14 | コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (五十)」
- 15 | 旧植田家住宅のご案内



表紙写真



展示室入口にて  
バックナンバー  
配架中(一部)

※『旧植田家住宅だより』の  
バックナンバーはホームページ  
からダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

### かまどの火(おもちつきの準備風景)

おもちつき、ご飯炊き体験、学校園見学など現在も活躍する旧植田家住宅のかまど。文化財施設でありながら実際に火が使える、昔のくらしを体験できる。12月～3月は企画展「昔のくらし～火ひと日～」を開催。詳細は4・5頁を参照。



令和5年度 冬季企画展

旧植田家に  
のこる

# 昔のくらし

## ～火<sup>ひ</sup>と日<sup>ひ</sup>～

令和5年(2023)

12/9(土)

令和6年(2024)

～3/11(月)



展示室の風景



ざっくりくらし年表



←展示品目録



江戸時代から昭和までの

「1日<sup>ひ</sup>」のくらしと「火<sup>ひ</sup>」の道具。

令和5年度冬季企画展③

### 昔のくらし～火<sup>ひ</sup>と日<sup>ひ</sup>～

現代ではあらゆるものが「電気」によって動き、日々私たちの生活を便利にしています。一方でその進化の過程で失われていったものも多々あります。旧植田家が生活していた江戸時代から昭和の終わりごろ(250年～40年前)までのくらしはどのようなものだったのでしょうか。一日のくらしを見ると今よりたくさん「火」を使う場面があったことが昔の道具から想像できます。実際に電気が使われるようになった明治から昭和でも「火」は使われ続けています。

今回は旧植田家住宅の収藏品の中から「火をおこす(着火)」、火を灯す(明かり)、火を使う(炊事)、火を消す(消火)、火で温める・暖まる(暖房)など火に関する道具を展示し、日々変化する「日一日<sup>ひひとひ</sup>」を感じてもらえるよう、企画展を開催しました。

#### 【火をおこす・ともす】

現代の着火道具といえはチャッカオン(ガスマッチ、着火ライター、点火棒とも)ですが、古くは火打石(火打金)が使われ、燐寸(マッチ)やライターの基礎にもなっています。火が着くと

火をおこす・灯す



火打石・金と燐寸(マッチ)



炭を入れる炭斗と炭を運ぶ十能



油の入った皿の灯芯に火を点ける



多数で多種多様な火鉢

火で温める・暖まる



手焙り～懐炉(灰)～白金カイロ



和ろうそくと燭台



火のしアイロン



ガス火鉢



昭和のガスストーブいろいろ



屋内外の灯り

ちょっとひといき



煙草盆と煙管入れ



ユニークな喫煙具



消防法被と鳶口



火を消す消火弾



調理に使う角型七輪と渋うちわ



ガスかまど

火を使う・消す

木や油、炭などを燃料として明かりや調理、暖房などに用いました。とくに夜は最も火を使う時間で、その火をできるだけ絶やさないようにすることが人々のくらしの課題であったということが明かりの道具から伝わってきます。

【火を使う・消す】

火は様々な用途に使われ、現代でも料理(調理)に欠かせないものといえます。また「火消し壺」のように火を消す道具が使われたり、火災時の消火方法にも違いがあり、同じ火を問題にしても認識の違いや技術の進歩がこれらの道具に表れています。

【火で温める・暖まる】

暖房としての火は季節限定ですが、日常で温めるものとして「火のし」アイロンや「酒燗器」に炭火を用います。またお風呂のお湯などを温めるのも火。そして昔の冬の暖房といえば火鉢。今の住環境では殆ど使えませんが、お湯を温めたりお餅を焼くこともできます。火鉢からストーブへと時代が変わり、燃料も炭からガス、電気へと変わっていきます。日一日を追いかけてみると大きな時代の流れに驚かされます。

(学芸員 安藤亮)

令和5年度 冬季企画展関連 **体験講座**

# いろいろな火おこし に挑戦!



火打ち石、火おこし器、マッチ、ライターなど  
火おこしに挑戦し、火のある昔のくらしを体験。

令和6  
2024年 2月11日(日・祝) 講師: 展示担当学芸員



火打ち箱



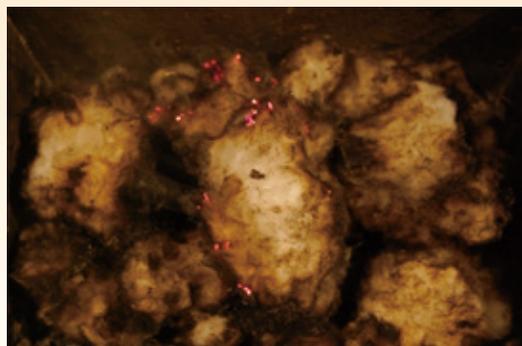
虫眼鏡と日光で点火



火打石で火花を散らす



舞ざり式の火おこし



炭化させた綿(火口)に火種が移った様子

企画展関連体験講座  
**いろいろな火おこしに挑戦!**

昨年の企画展関連講座「昔のあかり、明るさ比べ」に続き、2月11日(日・祝)は体験講座「いろいろな火おこしに挑戦!」を開催。小学3年生以上を対象に「昔のくらしと火」について、様々な火おこしを体験してもらうことで学んでもらいました。

まずは講座室で「火のある昔のくらし」について話をした後、火おこしに必要な「火口<sup>ほくち</sup>」を麻ひもから作ってもらいました。作った火口は一旦置いておき、最初の火おこしに挑戦。レベル1は「ライター」。現代でも使う

機会が減り、子どもには使いにくい構造になっていきますが、何とかロウソクや灯明<sup>とうみょう</sup>にも明かりが灯りました。

続くレベル2は「マッチ(燐寸)」。場所をカマヤに移動し、かまどの前で火をつけてもらいました。ここからが講座の本番! レベル3へ行く前に、虫眼鏡で日光を集めて点火する「収斂<sup>れん</sup>発火」の実験を行ない、お待ち兼ねの「火打石」と「舞ざり式」の火おこしに挑戦しました。

作った火口を用意し、後はひたすらカチカチ(火打石の音、シュツシュツ(火おこしの音)……。ようやく最後に火打石だけ成功し、火の尊さをみんなで実感しました。(学芸員)

旧家で芸能・伝統文化

# 落語の会

出演：素人寄席 天満天神の会

令和6年  
(2024年) 2/17(土)



紅梅亭 玉美 / 動物園



大川亭 飄々 / 二人癡



天満家 賢之輔 / 餅屋問答



天神亭 つき日 / 子ほめ

出演者 / 演目
紅梅亭 玉美 「動物園」
大山亭 飄々 「二人癡」
天神亭 つき日 「子ほめ」
天満家 賢之輔 「餅屋問答」



落語の会で心も体もあたたかく

旧家で芸能・伝統文化「落語の会」は、「素人寄席 天満天神の会」に出演いただくようになって今年で丸10年が経ちました。開催時期も冬の肌寒い2月でいつの間にか定着し、古民家でするにはちよつと厳しいと思われませんが、毎年心待ちにされているお客さんもいらつしやいます。

出演者は毎回替わり、過去にも出演した1名を含めて4名の方々が座敷の高座に上がりました。この落語会の魅力は何といても無料：ではなく、演者とお客さんとの距離感や建物の雰囲気です。時には台詞を忘れてお客さんと会話をしたり(今回はありませんでした)、部屋は暖房が効いて意外に暖かく(暑いことも)、落語の世界と和室がともよく合います。また老若男女だれでも気楽に日本の伝統芸能や文化に触れられるというのも大きな魅力です。

この日もたっくさんの「笑い」というお土産を持って、心も体もあたたかくなって帰ってもらうことができました。

(スタッフ)

冬限定企画

# あったか 旧家で暖家支援

実施期間：  
令和6年(2024)  
1/7(日)~3/11(月)

ほっと一息、「あったか支援」。  
冬の旧家を楽しく過ごそう！



◆企画「こたつで“暖らん”」

で暖家支援旧家で暖家支援旧家で暖

## こどものための ちやかい お茶会



4年ぶりの再開！

令和6年(2024)  
1月21日(日)

### ◆こどものためのお茶会

「旧家で暖家支援」期間中の1月21日(日)は4年ぶりとなる「こどものためのお茶会」を開催しました。お茶会は毎年夏と冬の年2回実施していますが、コロナの影響でしばらくどちらも中止が続きました。昨年度「夏のお茶会」(八尾高校茶道部協力)が再開されると、冬もようやく復活となりましたが、「新しい生活様式」以前のよう  
な活気はまだ戻っていません。

とはいえ再開を心待ちにしていた参加者もあり、お茶会は小さな子どもから大人までが参加し、先生(地元女性会協力)にお点前を教わりました。また久しぶりのお抹茶はいつも通りちょっと大人の味で、甘いお菓子がより甘く感じられたのではないのでしょうか。その様子を対面の席で見守る(撮影する)保護者の表情もとても楽しそうでした。お茶会は「暖家支援」の企画ではありましたが、心温まるひと時を過ごすことができました。



お茶を点ててみる体験



みんな温かく見守ります



ちょっと苦いかな？



2席目も子どもたちが参加

## 冬限定企画「旧家で暖家支援」

### ◆コタツで「暖らん」

通気性が良く夏場は快適に過ごせる旧家(古民家)の冬はまさに逆サウナ状態。ただでさえ外は寒いのに家の中に入っても同じではないかん、ということから始めた冬限定企画「旧家で暖家支援」。期間中、主屋に設置した電気コタツに入りながら様々な昔の遊びを楽しむことができます。

この企画は、寒い冬の旧家をいかに楽しむかという考えのもと、あえて「寒いものは寒い」ままで、心や体が暖かくなる方法を提案(支援)しています。コタツのほかにも、火鉢体験や飲料販売(休止中)、半纏(綿入れ)なども用意しています。来年の冬もまた、ぜひ家族友人お一人で「暖」を求めてお越しください。

遊び道具 貸出	
メニュー	
以下からひとつだけ	いろいろな遊び方
・百人一首 (1人~複数人)	かるた、ぼうずめくりなど
・将棋 (1人~複数人)	四り将棋、将棋くずし、はさみ将棋 将棋倒し(ドミノ)、重ね将棋など
・囲碁 (2人)	五目ならべ
・オセロ (2人)	
・花札 (2人以上)	
・トランプ (3人~4人)	パブリック、七並べ、神様裏切、 大富豪、ペーシファン、ボーカーなど
・カード麻雀 (2人~4人)	役なし麻雀
・明治時代のすごろく (1人~複数人)	

受付  
口付

遊び道具の貸出メニュー

## 旧家で暖家支援 旧家で暖家支援 旧家で暖家支援

# 石臼珈琲体験



2時間かけて1杯の珈琲!?  
大人のための  
ホットなイベント!



令和6年(2024)  
3月3日(日)

### ◆大人の石臼珈琲体験

「旧家で暖家支援」の企画の一つとしてスタートした「石臼珈琲体験」は、高校生以上を対象に、毎年10名の定員で実施する人気企画です。珈琲豆の選定(ダメ豆の除去)作業から七輪を使った焙煎、石臼で珈琲豆を挽くまでの体験ができ、あとはプロに珈琲を淹れてもらいます。

まずは珈琲の歴史や種類、淹れ方などについて講師から説明を受けた後、明る



七輪と炭火で豆を焙煎



講師の話をお聴き参加者



ドリップ中



石臼で珈琲豆を挽く

場所に移動し、ダメ豆探しをみんなで行ないました。その間、カマヤではスタツプが必死に炭火を熾しています。研修の成果もあって流れるようなスピードで焙煎に進むと、参加者は交代で黙々と作業を続けます。焙煎した豆はすぐに団扇(うちわ)の風で冷まし、石臼で挽くと、香ばしい香りが漂ってきました。いよいよ試飲です。

今回は2種類の淹れ方で珈琲を楽しむことができました。たっぷり2時間をかけて味わうホットなイベントとなりました。



## 第13日:御財印、はじめました。

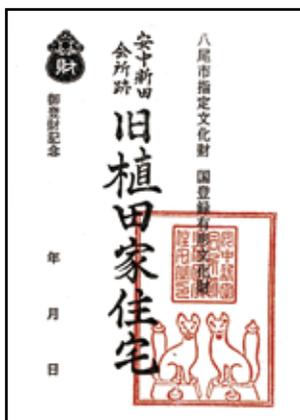


## 「<sup>ございん</sup>御財印めぐり」って？

「御財印めぐり」は「各地で継承される文化財等のデザインを表象した『御財印』（御朱印の建物版）を集め、その地域の文化・歴史や建物を知り、地域の人たちとのふれあいを楽しむ旅」として令和2年よりスタートした、大阪府登録文化財所有者の会が主催・企画支援する事業です。令和6年3月時点で30の自治体・106カ所に御財印が設置されています。（「御財印めぐり」2024年しおり（パンフレット）参照）

### 【デザイン決定】

御財印はプロのデザイナーさんによって各文化財等のイメージに合わせた文字やイラストなど全て異なるデザインがされています。この度「御財印めぐり」に参加させてもらうこととなった旧植田家住宅は江戸時代の新田会所跡で旧植田家の住居（古民家）という文化財施設。デザイン化にあたり、要望も取り入れてもらいながら完成した御財印がこちらです。



旧植田家住宅の御財印イメージ

名称の篆刻文字と施設のキャラクター「きゅうちゃん」の基になった神舎の狐「めっちゃええやん」。旧家のイメージに合った書体の文字も「めっちゃええやん」。この後、御財印は神舎に奉納しました。

### 【スタンプ練習】

朱色のデザイン部分と黒色の文字は2種類のスタンプになっていますが、日付は手書きのため、日々スタンプが筆ペン片手に練習しています。またスタンプといえど、押す位置や押し方にもコツが要するため、こちらも練習が必要。スタンプによってクセも違うため、仕上がりがとても楽しみな御財印です。

### 【グッズ販売】

旧植田家住宅では公式の「御財印帳」と「サコッシュ」（御財印帳袋）のほか、古布を使った植田家オリジナルのサコッシュや巾着袋（図右）も販売予定です。



なお八尾市内では、萩原家住宅（茶吉庵）、恩智神社にも御財印があります。詳しくはお問い合わせください。



神舎に奉納！？

## 特別寄稿「『バケモンの涙』の奇跡①」

前号(55号)で紹介した「植ちよピ④いとはんのポン菓子」(13p)の中の「ひよんなこと」について現在八尾市で子ども食堂などの活動をする方から頂いた“奇跡”の物語をお届けします。



『バケモンの涙』(歌川たいじ著、光文社)という本があります(現在は『いとはんのポン菓子』に改題)。

『いとはんのポン菓子』(歌川たいじ著、光文社文庫)紹介より ——

敗色濃厚となった太平洋戦争末期、大阪の旧家のいとはん・橘トシ子は国民学校の教師となる。栄養不足で教え子たちが次々と命を落とす中、少ない燃料と穀物で大量のポン菓子を作れる機械の存在を知る。トシ子はその機械の製造工場を立ち上げようと、“鉄の町”北九州へ、1人乗り込むが…。人々を飢えから救い、復員兵に職を与えた実在する女性の奮闘の半生を描く。

私はこの本に出会い、私たちの住む大阪府八尾市龍華の地で、戦時中に1人の女性が子どもの命を救いたいと波乱万丈の半生を駆け抜け、後にたくさん子どもたちのお腹を満たすためポン菓子機「穀類膨張機」を作って世に広めたという凄い人がいたことを知りました。主人公のトシ子さんと同じ地元で現在子ども食堂の活動をする私たちと想いを同じく、「子ども」を真ん中に考え、行動を起こされていたことに、とても励まされました。

「子どもの貧困」が社会問題になり始めたころ、2016年3月当時の教育長から「地域子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり(「子ども食堂」の発足)」のお話があり、地域で絵本の読み聞かせに携わっている人、ボランティア活動に携わっている人たちが中心となって同年6月から子ども食堂を始めることになりました。また子どもだけでなくスタッフ含め大人もみんなが安心して過ごせる、ほっとできる場所を目指してスタートしました。

町会や近隣の小中学校へのお願ひから始め、地域の活動として徐々に認知されるようになると、いろんな人たちから食材や活動資金の寄付なども頂けるようになってきました。「地域の子どもは地域みんなで育てる」という理想に少しでも近づけられるよう意見を出し合いながら、創意工夫をしました。ところが、少しずつ軌道に乗ってきた2020年から新型コロナが猛威をふるい、人が密集する施設などは軒並み休館や使用中止になりました。月2回の子ども食堂も開けず「こんな時こそ、子どもたちと話したいのに、温かいごはんを届けたいのに」と複雑な胸中の一方、状況を考えると中止はやむを得ないとも感じていました。

しばらくして、予防接種が始まり、停滞していた様々なことが少し動き始めた頃、子ども食堂も屋外でキッチンカーを借りて縁日風の焼きそばやおむすびなどを提供し、子どもたちが楽しめるような「イベント的食堂」として再開しました。なかなか以前のように子どもたちも帰ってきませんでした。少人数で少しずつ活動を続けました。

その頃、寄付で頂いたお米がたくさん余り出しました。このお米は「子どもたちのために」という多くの人たちの温かい心そのもの。無駄には出来ないので、お米を5合ずつ小分けにし、来た子どもたちに配ったりもしましたが、来る子どもも減っていて捌き切れません。そんな時、以前に読んだ本『バケモンの涙』を思い出したのです。

お米をポン菓子にして地域子どもたちに配布しようと思いつき、企画書を作り、近くのお寺やコミュニティセンターなど、様々な場所に協力を求め、お願いに奔走しました。しかし、まだ何処もコロナ禍で人が集まる事は出来ないと言われ、実現出来ませんでした。(次号に続く)

元 子ども食堂“夢うららほっとステーション”・八尾で絵の本ひろば広げよ会 池田多瑛

# 四会所だより (36)

## 平野屋新田会所最後の所有者

### 「銭屋高松家」からの資料寄贈

令和五年九月、平野屋新田会所の最後の所有者であった銭屋高松家から数千点に及ぶ資料が大東市に寄贈されました。

銭屋高松家は、大坂・船場で白粉の製造販売、金融や貸家業などを主な生業とした商家です。文政七年（一八二四）に、七代目高松長左衛門清房が平野屋新田会所と深野南新田（大東市平野屋・谷川・南新田）及び河内屋南新田（東大阪市元町）の所有権を取得し、以後、平成十九年（二〇〇七）まで高松家が会所屋敷を所有していました。

寄贈された資料には、北久太郎町（大阪市中心区）の店舗に掲げられていた「天下一御白粉所」と彫られた看板や、文化年間（一九世紀前半）から明治二十年代

（一九世紀後半）までの収支決算書である「勘定帳」、延宝四年（一六七六）から明治十六年（一八八三）までの土地・建物等の取得の経過を記した「家記録」など、高松家の経営に関する史資料のほか、高松家が所有した平野屋新田会所や深野南新田・河内屋南新田、八尾市の柏村新田（八尾市柏村町）に関する記録類なども含まれています。

江戸時代の大坂商人に関する資料は、三井家や住友家など後の財閥につながる家のものをのぞいてほとんど存在が知られておらず、大東市に寄贈された「銭屋高松家文書」は、大坂の商業史を明らかにしていくうえでも重要な資料です。

大東市は、「銭屋高松家文書」の調査を進め、大坂商人と新田との関わりなどについて具体的に明らかにしていきたいと考えています。今後の調査成果に是非ご期待ください。

（大東市産業・文化部生涯学習課 佐々木拓哉）



「家記録」



「御宮拝殿修繕並二大会所普請人足帳」



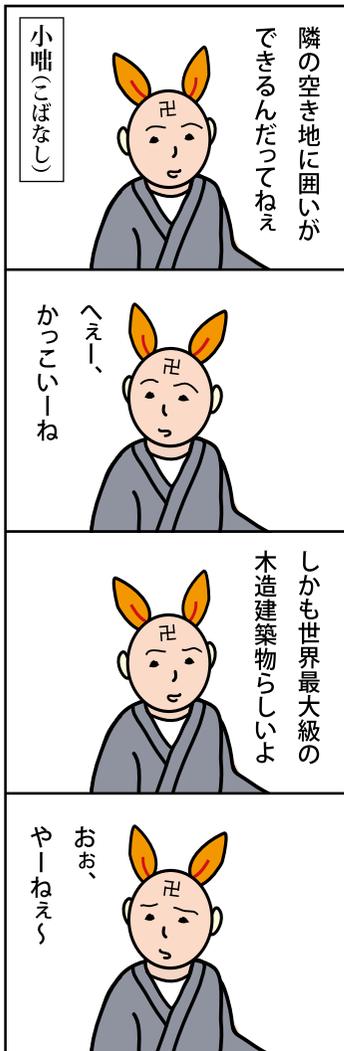
文政8年の「勘定帳」



「天下一御白粉所」看板

# マンジークン

安富士 暁



「植田家住宅の・ちよっとした・トピックス」

## 植ちよぴ。(ックス)

### ① 年末恒例の「おもちつき&ミニ鏡餅」

2023年12月23日(土)

コロナ禍を乗り越え、年末の雰囲気を取り戻しつつある恒例の「おもちつき大会」。おもちの試食は中止し、未だ「おもちつき大会」とはいかないが、昨年好評だった「ミニ鏡餅づくり」も新たな利用者の開拓につながった。

今回は特に八尾市の現役の消防職員の方々が「搦ぎ手」として協力して下さり、防災面でも非常に心強かった。来年も「出勤をお願いします」。



庭で待機する消防車

### ② 新年初めの「ギャラリー展示'23」

2024年1月5日(金)〜31日(水)

今年最初のイベントは、昨年11月から公募を行っていた「ギャラリー展示'23」を開催。展示期間は新年であるが、タイトルは年度で表記する。

「新旧大和川および新田会所周辺の風景」をテーマに今回は6名の応募があった。どの作品も個性的で、八尾市内の玉串川の風景をはじめ、旧植田家住宅内の井戸舎や河内木綿の綿と花を描いた作品もみられた。



ギャラリー展示の様子

### ③ 旧家で記念撮影「成人の日」&「ひな祭り」

成人の日 2024年1月5日(金)〜21日(日)

ひな祭り 2月23日(祝)〜3月24日(日)

「成人の日」の記念撮影は例年参加者が変わり、

今年は一組の新成人が着物を着て撮影に訪れた。

一方で「ひな祭り」はリピーターも多く、親子連れなど400名近くの来場者が期間中にあった。また3月2日(土)と3日(日)に設置した「おひなさま変身スポット」を楽しむ利用者の姿もみられた。

### ④ 10年ぶりの「ぶらり玉串川・北部編」

2024年3月16日(土)

旧大和川を歩く「ぶらり玉串川」の北部コースはちょうど10年前にも実施し、その様変わりした風景を楽しむとともに、古写真と同じ場所に立つてみる試みも行なった。公園や寺社仏閣、墓地など普段見慣れた場所の意外な歴史などを発見しながら、新旧の川跡周辺を散策し、あつという間に予定の3時間が経過した。



幼稚園跡の公園の古写真

### ⑤ 今年度最後の「いまむかし遊び」

2024年3月17日(日)

今年度最後のイベントは、いつもの「昔遊びの日」と連動して「いまむかし遊び体験」を開催。子どもから大人まで一緒に遊んで楽しむ機会があった。むかし遊びに軍配。



古今の遊び道具を用意

## 落穂拾い

— 今東光の薫風 — (五十)

文・伊東健

今東光の長編小説「裸の恋人」で天才ピアニストとして登場する松本四郎には、モデルがいます。

松竹少女歌劇団(略称OSK)を象徴する「桜咲く国」を作曲した松本四郎がその人です。(発表当時は四良)

NHKの朝の連続テレビ小説「ブギウギ」で趣里さん演じる笠置シヅ子が宝塚に落ちてOSKを訪れた際、入団を後押しした林部長こそが、まさに松本四郎だったのです。朝ドラでは梅丸少女歌劇団でした。

松本四郎は、OSKの前には宝塚少女歌劇団に在籍しており、東光がこの時期について回想した文章が残されています。

宝塚歌劇50年史を拾い読みしていると

大正10年(1921)3月1日、松本四郎  
客員として入団という記事にぶつかった。

僕はこの松本四郎君を若千モデルにして、

後は多くはフィクションを織り交せて「裸の恋人」という小説を書いた。この作には小林二三さんの面影をも少しばかり描いたつもりだ。僕と彼とは上野音楽学校の予科生のときからの交わりで、それは今日といえども細く長く続いている友情なのだ。当時、彼は家庭の事業から研究科に残ることができず、半ば自暴自棄になって家出した直後で、いうなれば小林二三さんに拾われたようなものだ。しかしながらピアノの独奏家として立っていた彼が、突如として宝塚歌劇の教師として入団したことは僕に衝撃を与えた。(中略)

たしが翌年大正十一年(1922)の夏だったと思うが、川端康成も大阪に帰省したので僕はいつしよに行き、松本四郎の寓居に旅装を解いた。当時、彼は逆瀬川に近い真ん中にある温泉のある小さな別荘風の家に、独り身をわびしく暮らしていた。その中洲の住宅は何軒かが建ち並んでいたが隣り近所はなく、僕らは12時ごろになると素っ裸で逆瀬川に泳ぎに行き、真夜中をすぎるところにすこぶる爽快になって帰るのであった。(中略)

松本四郎がオーケストラの指揮をしていたのだが、第一ヴァイオリンを弾いていた

吉田君が辻家へ養子に行き、その令嬢が辻久子さんだ。久子さんのデビューは松本四郎が一生懸命になり、たしか五つ六つで大阪で初舞台に立ったのではなかったか。

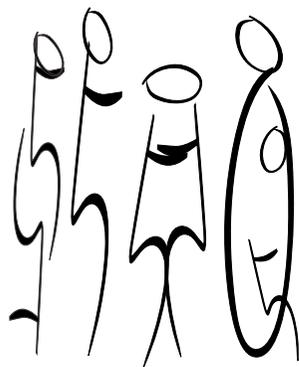
(後略)

(「宝塚 宝塚市編」所収「宝塚の思い出」昭和三十九年十二月一日淡交新社発行)

二〇二一年に九十五歳で亡くなられた辻久子さんは戦前から長く国際的に活躍されたバイオリニストです。「裸の恋人」での松本四郎も河内出身のボーイの音楽的才能を見抜き抜擢したりする所に四郎の目利きぶりが反映されているのかもしれない。OSKや宝塚と東光が結びつくとは意外かもしれませんが、才能ある友人に恵まれ、それを大切に育み、一緒になって楽しんで今東光らしい挿話だと感心してしまいます。

## 落穂拾い 50

— 今東光の薫風 —



# 旧植田家住宅のご案内

2024年  
5月～8月

## これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」  
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

### 展示

2024年

◎4月27日(土)～7月28日(日)

企画展①「開館15周年記念展示・前編」  
★5/6(振休・月) 展示解説の日(学芸員の立ち話)

◎8月1日(木)～9月2日(月)

通常展「大和川付替えと植田家の收藏品」

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



### イベント

(詳しくはお問い合わせください)

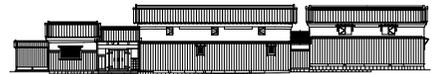
- 5月 3日(祝・金) 錦影絵って、どんなん? ワークショップ  
5日(祝・日) こどもの日企画「新聞紙でかぶとを作ろう」  
★5/1(水)～26(日) 旧家で記念撮影～こどもの日～  
★5/1(水)～26(日) 河内木綿のまち・やお(「綿の種」配布)
- 6月～8月(第3水曜) 植田家ボランティア養成講座(全3回)
- 7月 27日(土) 子ども昔くらし体験～夏編～  
★7/3(水)～9/8(日) 納涼企画「冷やし旧家、はじめました。」
- 8月 7日(水)・24日(土) 土蔵でクラフト  
下旬 夏のお茶会(未定)  
★8/1(木)～9/2(月) 特別企画「旧植田家Zoo(ザー)宅2024」

※予定は変更する場合があります。



## 休館日カレンダー

■ = 休館日



5 May

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6 June

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7 July

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8 August

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

### 【交通案内】



- ◇ JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
- ◇ 近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行  
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分
- ※当施設には駐車場はありません。車でのご来館はご遠慮ください。

- 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始  
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)
- 入館料：一般250円(団体20人以上で120円)  
高校・大学生120円(団体60円)  
※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料
- お問い合わせ(見学の相談、講座室の予約なども受付)  
〒581-0084 大阪府八尾市植田町1-1-25  
TEL/FAX: 072-992-5311  
E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

### #編集初記(4・7)

新年度に入り、来月5月  
でいよいよ旧植田家住宅  
は開館15周年を迎えます。  
開館当初から発行する  
本誌も今回で56号です。  
▼これまでの経験値や  
蓄積によつて年々作業  
効率が高まるにつれて  
編集開始時期が遅くな  
っていることにも気が  
付きました。これはまず  
いと反省し今回は編集  
後記ならぬ編集初記で  
気持ちを立て直します。  
美術様式の「マニエリス  
ム」に由来する「マンネ  
リ」に陥らないようにせ  
めてもの抵抗を...

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

